

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一. 高齢者が安らぎと生きがいを持てる、自立した生活の場を築きます。 一. 地域からの信頼を大切に、地域に根ざした施設を築きます。 一. 職員は常に向上心を持ち高度な介護技術と、心豊かな福祉サービスを提供します。」をホームの理念として掲げ、利用者が安心してその人らしい生活を続けらるよう家族、職員、地域住民と共に支えています。	方針、目標を具体化している。 文書にて示している。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定例の施設会議やグループミーティング、毎日の業務を通じて理念を共有し理念に沿った介護サービスの実践に取り組んでいます。	入居時・オリエンテーションの際に説明。 3Fフロア、事務所、休憩室への張り出し、日常に回覧できるように意識付けしている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホームの機能を入居者のケアに配慮しつつ、地域に解放している。(認知症の理解や関わり方について相談対応・教室の開催、家族・ボランティア・地域の人等の見学・研修の受入など)	併設の在宅介護支援センターを通じて介護教室、いきいき教室を開催。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の人たちが見学に来たり、立ち寄ってもらえるように取り組んでいる。近所の花屋さんより季節毎の花をいただいたり、利用者が職員と一緒に近くのお店に買物にいたりしている。	○ 地域の子供達が遊びに来てくれることがある。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者は毎月地域の憩いの家での食事や喫茶の会に出席して交流し、運動会にも参加しています。地元小学生の体験学習も受け入れています。地域の方が法人の役員として参加しています。法人の行事の時には地域の住民にも参加してもらっています。ボランティアと一緒に歌体操や紙芝居を楽しんでいます。	○ 買い物は月3回。散歩は毎日。 学校・地域の行事に参加。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症の理解や関わり方について相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受入など。	○	併設の在宅介護支援センターでの介護予防教室
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で示された事項について、改善が進んでいます。外部研修の機会も増え、毎日の業務の実践に取り組んでいます。自己評価については、管理者が職員と議論をして完成させ、認識の共有化を図って、サービスの具体的な改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域包括支援センター職員、地域ネットワーク推進員、地域の代表、利用者、家族の参加のもとで2ヵ月毎に開催しています。会議では活動方針や運営状況、行事、利用者の生活ぶりについて説明しています。家族とのコミュニケーションを増やすことやボランティアの受け入れ等、地域との交流について意見を交わし、相互の理解を深めています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	併設の在宅介護支援センターを通じて、地域包括支援センターと困難事例について相談したり、情報交換を行っている。 法人として家族介護教室、いきいき教室等の受託をしています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	採用時、あるいはフォローアップ等、それぞれの段階に応じた外部研修を職員が受講できる体制が用意されている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束は行わないということをすべての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時、入居申し込みに至る経過、生活や対人関係、利用者・家族の希望、利用料金、その他の実費等十分に説明し、理解・納得していただいている。 解約をする時は、利用者やその家族に十分な説明を行った上で納得のいく転居先に移れるように支援している。		
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの苦情や意見はどんな小さなこととも見逃さず、法人代表者や管理者に報告することとしている。 家族さんに運営推進会議の出席を呼びかけて意見、不満、苦情をだしてもらい、運営に反映させている。		意見箱は設置できていない。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族との面会時には、利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の医療や安全面に関する事項については、必要の都度、電話で家族に連絡しています。預り金については出納内容を定期的に報告している。 運営推進会議議事録を報告しています。	○	利用者の日常の暮らしぶりをもっと報告したい。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは面会時だけでなく、家族の参加する行事の時や年2回の家族会で思いや希望、不満を表せるようにしています。運営推進会議への参加も毎回、声かけしております。		苦情相談窓口の連絡先は契約書に載せている。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例の施設会議やグループミーティング等で業務改善に関する職員の意見を定期的に把握し、その意見を反映させている。		サービスの質を向上させるよう努めている。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状態や生活の流れを支援するためにこれに即した職員の勤務ローテーションを組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員数に比べて退職者が多くなっています。利用者、ご家族への信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が重要と考えている。残った職員の頑張りや新人採用による補充で利用者への影響は最小限に抑えられています。新人職員の採用時研修も計画的に実施しています。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月毎に職員が話し合っ業務目標を設定し、実行する制度があり、ステップアップを目指して、外部研修を受ける機会もあります。毎月定期的にホーム内研修を行っている。一週間の期間をとり、全員参加するようにしている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪認知症高齢者グループホーム協議会の会員で情報交換や勉強会に参加している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員相互の親睦（親睦会があり、定期的に家族参加で開催している）。悩みの聴取、スーパーバイザーの導入等を取り入れている。積極的に職員に助言したり、相談にのったりしている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各自の勤務ローテーションを作成にあたり、公休の希望日を聞きとり、調整している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の気持や希望を遠慮やこだわりなく言える雰囲気を作るようにしている。 表現の仕方、声の大きさなどを気かけ、ちょっとした意思表示や反応を見逃さないようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時等に家族の気持や希望を遠慮やこだわりなく言える雰囲気を作るようにしている。 面会時、運営推進会議、家族会時などによく聴く機会を作り、受けとめることとしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の主体性を重視し、アセスメントを行い、個別の状況や特徴を踏まえた介護計画を作成している。又、それを実際のケアに活かすよう努めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービスセンターへのサービス利用や同法人の老健のショートステイ利用で職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら取り組んでいる。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に過ごし、学び支えあう関係を目指した支援を行っています。書道や俳句の作品を持ち込んでいます。空調機に詳しい方、ベランダの花の水やりが好きな方等、利用者の得意分野で家事や行事の機会を通じて学び支えあう関係を作っていきます。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が気がかりなことや意見、希望を職員に伝えたり、相談したりできるように面会時以外にも声かけや定期的な連絡などを積極的に行っている。 (運営推進会議議事録や写真の送付等)		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。(来やすい雰囲気、歓迎、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)		利用者と家族と一緒に過ごす時間をもっと作っていききたい。 面会時に一緒に買い物や、食事、喫茶等に家族だけの時間を。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買物、散歩、近隣訪問、集会参加等に行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合った利用者同士で過ごせるような場所を確保している。 体操やカラオケ等多人数でできることを利用者と一緒に職員も参加している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者が「移り住むことのダメージ(リロケーションダメージ)」を最小限に食い止めるために、家族等はもちろん、本人に係わる保険医療、福祉の関係者と十分な情報交換と話し合いを行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者のちょっとした意思表示や反応を見逃さないように遠慮やこだわりなく希望を言える雰囲気を作り、希望や意向の把握に努めているが、本人本位に検討している。	○	時間を作り、個別に話をする機会をもつよう努めている。
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生まれてから、これまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや、尊厳を支えるために生かしている。	○	本人、家族よりアセチメントを実施している。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者が自由に自分のペースを保ちながら自己決定を促す取り組みを日常的に行っている。 利用者が一人でできることへの配慮や、自立して生き生きした生活を送ることができるようにサービス提供している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の現在の暮らしや願い、心身の状況を把握し、医師や看護師、家族の意向を反映させて介護計画を作成しています。	○	月一回、定期ミーティングをしてケアに活かしている。
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的には6ヶ月毎に、また状態の変化がある時はその都度行うことになっている。状態の変化に応じ、緊急ミーティングを行い、ケアに活かしている。	○	状態変化に応じ、緊急ミーティングを行い、ケアに活かしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護を介護計画に反映させるため、利用者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。	○	個別の実施や介護計画の見直しに活かしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	関連法人の診療所の医師と訪問看護ステーションの看護師との医療連携により必要な医療と看護を提供しています。地域のボランティアの支援も受けています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者の生活の安定や拡がりのために、周辺地域の諸施設から協力を得ることができるよう理解を拡げる働きかけを行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを利用することは実施していない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向や必要性に応じて地域包括支援センターとの協働に取り組みたい。運営推進会議にも参加してもらっているので相談しやすい。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	関連法人の医師による往診医療を受けていますが、診療科目によっては入居以前からのかかりつけ医療機関により引き続き医療を受けています。協力医療機関と連携し、夜間や急変時の対応についての体制も整備されています。		週1回往診。半年毎の定期健診を受けている。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけの医師は内科医であるが、長年地域医療に取り組み、認知症の高齢者に多くたずさわっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	母体の法人は訪問看護事業所も運営している。心身の変化や異常発生時に気軽に相談できる医療関係者を確保している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した場合、早期退院のための話し合いや協力を医療機関と行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでの看取りの実績があります。入居時にホームでの看取り実施の指針を伝え、家族に説明し、同意を得ています。状況の変化とともに利用者と家族、医師、ホームとの話し合いを行いながら対応していく予定です。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族、医師、看護師、介護士とともにチームを作り、支援に取り組んでいる。今後の変化に備えて検討や準備を行いたい。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者が「移り住むことのダメージ（リロケーションダメージ）」を最小限に食い止めるために十分な話し合いや情報交換を行うよう努めている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、職員の言葉かけや、態度は明るく丁寧で、やさしい雰囲気です。職員は採用時に個人情報の取り扱いについて法人と書名で取り交わしています。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者のちょっとした意思表示や反応を見逃さない。遠慮やこだわりなく希望を言える雰囲気を作る。入居者の気持や希望を聞きだすようにしている。	○	選んでもらう場面を作る。 選ぶのを持つ等
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムに配慮し、利用者のペースでゆったり暮らせるよう支えています。職員が利用者を制止したり、急がしたりする言葉はなく柔軟な対応をしています。起床時間に合わせた朝食時間・入浴の時間についても柔軟に対応しています。	○	個別性のある支援を行っていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服装や髪型について利用者一人ひとりの意向や好みに配慮している。希望にあわせて、理美容院の利用を支援している。 (カット、パーマ、セット、染めなど)		毎月一回、美容ボランティアに来ていただいている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	通常、夕食については下ごしらえ済みの食材を、朝と昼については未調理の食材を併設のデイサービスの厨房から取り寄せています。利用者は食事準備、野菜の下ごしらえ、盛り付け、後片付け等の一連の作業に参加しています。月1回の食事と月2回のおやつについては好みのメニューで買物から調理までの一連の作業にも利用者が参加し、楽しんでいます。職員は食べ方の把握や食べこぼしに対するサポートをさりげなく行い、会話をしながら楽しくなごやかな雰囲気を作っている。	○	各個人自身の茶碗、湯のみ、箸を使用している。各個人にあった調理の実施に取り組んでいきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が望む飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを楽しめるように支援している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	おむつをできる限り使用しないで済むように利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄の自立にむけた支援をしている。排泄の誘導、介助や確認、失禁の対応は、不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。	○	失禁の対応を積極的に行う。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望によっていつでも入浴可能で、毎日入浴している利用者もいる。 通常週3回以上、ゆったり寛いだ入浴を楽しんでいます。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	できるだけ日中は離床していただき、レクやゲームの参加をしてもらっているが、車イスに座りばなしの人には昼食後1Hほどドッドで臥床されている。居室で臥床されたりソファで傾眠してる方も自由に休息している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できるだけ日中は離床していただき、レクやゲームの参加をもらっているが、車イスに座りばなしの人には昼食後1Hほどドッドで臥床されている。居室で臥床されたりソファで傾眠してる方も自由に休息している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に 応じて、お金を所持したり使えるように支 援している	利用者の買い物（小口）にあった金額を少しずつ 財布に入れ、本人に持っていただく。お支払いす る時は職員立会いで本人から支払っていただき、 お金の受け渡しをしてもらっている。その時には 必ず領収証、レシートをいただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひと りのその日の希望にそって、戸外に出かけ られるよう支援している	日常的な公園や神社、商店街への散歩以外に市場 やスーパーへの買物、季節の花見や遠足に出かけ ています。 個別の外出も希望によって外出するよう努めてい る。	○	下肢の運動のためにも、もっと戸外に気ばらしを かね、外出支援をしたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けな いところに、個別あるいは他の利用者や家 族とともに出かけられる機会をつくり、支 援している	普段行けない場所に他の利用者と一緒に出かける 機会はある。季節毎の花見や遠足を計画的に施行 している。 個別で外出する機会はない。	○	家族さんやボランティア等を利用し、個別外出す る機会を作りたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をし たり、手紙のやり取りができるように支援を している	本人自らが電話する支援はしている。 手紙のやり取りは希望されていない。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人 たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地 よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問していただき、訪問時は居心地よく過 ごせる雰囲気を作っている。 日時制限なし。一緒に過ごしていただく時間を 作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないということをすべての職員が 正しく認識している。 身体拘束のケアを実践している。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関ドアは開放されていますが、ホームのある3階から廊下に通じるエレベーターに鍵がかけられています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の一日の所在や様子を記録している。夜間も2時間おきに居室で確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤、刃物等の注意が必要な物品については、保管場所、管理方法等を明確に取り決めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態が発生した場合、事故報告をまとめており、サービスの改善につなげている。 (再発防止の話し合い、今後に活かす意識づけ等)	○	ヒヤリハットや事故報告書を記入することを義務づけ、事故防止につなげている。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変や事故発生時に備え、マニュアルを文書にて作成し、応急手当や初期対応の仕方を日々の実践に役立てている。	○	応急手当や初期対応の訓練を定期的に取り組むたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害に備えるマニュアルを作成し、年1回消防署立会いで避難訓練を実施しています。 非常・災害時の食料品と水の備蓄はまだしていない。	○	非常・災害時の食料品と水の備蓄をやっていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族と一人ひとりに起こり得るリスクについて話し合っていない。 起こった問題については家族等に説明し、納得してもらい、今後の対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の回日や介護計画に反映させるため、利用者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録し、職員の申し送りや情報伝達を確実にし、重要な点はすべての職員に伝わる仕組みを作っている。		医療関係者への連絡、相談もする。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者が使用している薬の目的や副作用、用法や用量を理解しており、一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。	○	症状の変化により薬の変更や新しく処方された時は申し送りに記入している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取と繊維類を多く摂取してもらうよう工夫する。 体を動かす体操や散歩をしてもらうよう実施している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後の歯みがき、入れ歯みがき、うがい等一人ひとりの口腔内の清浄を日常的に支援している。毎夜毎の入れ歯のポリデント使用もしている。毎週一回、訪問歯科利用し、口腔チェックをしてもらっている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者全員の一日の摂取量と水分管理の必要な利用者の水分摂取量を把握し、記録しています。栄養バランスについては併設のデイサービス厨房の管理栄養士のアドバイスを受けています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	利用者及び職員に対する感染症予防に関するマニュアルを作成し、その内容は全職員は周知している。感染予防のため、換気、室温などの環境整備に配慮している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ホーム内の清潔や衛生を保持している。食材は同施設デイサービスの厨房より業者配達があり、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	違和感や威圧感を感じさせず利用者や家族が入りやすく、近隣の住民も訪れやすいように玄関まわりや建物の周囲に家庭的や雰囲気づくりの配慮をしている。（玄関まわりに草花を植える。親しみやすい表札をかける等）		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エレベーターホールは絵画や花が飾られ、椅子もあって、ゆったりとした雰囲気になっています。広く、明るいきりびきりダイニングルームからは季節の花があるベランダ越しに公園の緑が望まれ、開放感があります。季節の飾りや屋上菜園で育った花が飾られ、ゆったりとしたソファセットや複数の椅子が置かれ、壁には利用者の書道作品や俳句があって落ち着きと生活感のある空間になっています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分のお気に入りの椅子に座り、独りで考えごとをしたり、気の合った利用者同士で仲よくソファでおしゃべりできる居場所を確保している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入口にのれんが掛る各居室には、利用者が整理ダ ンス、飾り棚、鏡台、椅子、仏壇、人形、自作の 俳画、新聞、家族の写真等、使い慣れた馴染みの ある物を持ち込み、家族が母の日にプレゼントし た花も飾られていて、個性的で安心して生活でき る空間になっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気 に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	気になる臭いや空気のだよみがないう換気 を適宜行っている。また、冷暖房の温度調節は、冷 やしすぎや暖めすぎがないように適切に行ってい る。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	利用者の身体機能の低下にあわせて、安全かつ できるだけ自立した生活を送れるようにするための 設備や工夫がある。(すべり止めや要所への手す りの設置、浴槽、便座、流し台の使い勝手の工 夫、物干し場)		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	場所の間違いや分からないことでの混乱を防ぐた めの工夫をこらしている。 (トイレや部屋の目印等)		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	ベランダに草花を植え、楽しんでいる。 布団や洗たく物を干している。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームは昔ながらの静かな住宅地に建てられており、前には広々とした公園が広がり居室や居間からの眺めもよく環境にめぐまれています。
在宅介護支援センター（1F）、デイサービスセンター（2F）、を併設する建物の3Fにグループホームがある。屋上に菜園を設け、ナスやピーマン、大根などの季節の野菜を作り、入居者が散歩しながら収穫できるような楽しみの場になっています。
関連法人の診療所の医師と訪問看護ステーションの看護師との医療連携により、必要な医療と看護を提供しています。